



根知小だより

令和6年度6月号 令和6年6月7日発行

糸魚川市立根知小学校
〒949-0531
糸魚川市東中 5121-1
Tel 025-558-2100
Fax 025-558-2109
Mail
nechi@itoigawa.ed.jp

◇「心・力をかけ×合わせて」全校の力を一つにした大運動会！



5月25日(土)、今年最初の大きな行事である大運動会を実施しました。全校児童数は今年ぐっと少なくなりましたが、子どもたちと先生方、保護者の方の知恵や工夫を生かし、地域の方の温かい応援を受け、そして何よりも、これまでの伝統、積み重ねによる根知小

らしい元気の良さ、発表力が発揮された素晴らしい運動会となりました。

12名全員が応援団として活躍したこと、根知小らしい新種目「雪合戦」ではチームで作戦を考えたこと、踊りの見え方を意識し笑顔でソーラン節を踊ったこと、点数関係なく親子で、神輿作りやリレー、追っかけ玉入れを楽しんだこと、どれも今年の運動会のすてきな一場面です。今年から競技+PTC活動と少し形を変えた運動会は、これがベストとは限らず今後も変わり続けると思います。しかし、「まず、やってみること、変わろうとすること、挑戦する気持ち」は、子どもの心に残り、これを大切にすることで、次代の根知小、未来や明日につながっていくを感じています。

「伝統は革新によって守られる」変わり続ける中で、新しい伝統が作られます。子どもたち、保護者の方、地域の方と一緒に、精一杯、運動会を全力で楽しみ、みんなで新しい一歩を創ることができた1日になりました。地域の皆様には、グラウンドの草刈りから、たくさんの御厚情もいただきました。応援、本当にありがとうございました。

心・力、
かけ×合わせ
よう！



親子で神輿が楽しくできました、笑顔。走ってみるととても大変キツイ！

◇プール清掃頑張りました！台湾大学との交流準備を進めています。

31日(金)にプール清掃を行いました。1年ぶりのプールの底は、砂や土、苔などで大変な状態でしたが、いつも掃除熱心なこどもたちの大変よい働きで、なんとかきれいになりました。気持ちよくプール開きを迎えることができそうです。6月14日(金)には台湾大学の学生との交流、17日(月)からはワーケーションの子どもたちが来校し、今年度も4名の子と交流を深めます。台湾大学の学生とは、餅つきを楽しみ、運動会のよきこいソーランを披露します。プレゼントに大型の鶴も折りました。よい関わりの中で積極性、自主性、自他を思いやる力を伸ばしていきます。



◇7月のおもな行事予定 ○暑い日が増えます。体調に御留意ください。



| | | | |
|--------|-----------------|--------|-----------------|
| 1日(月) | 学習指導改善調査実施(~2日) | 16日(火) | 2,3年月末5限下校 |
| 3日(水) | 全校集会、全校算数テスト | 23日(火) | 終業式(給食後放課) |
| 4日(木) | 6年3校交流会(大野小理科) | 24日(水) | 夏季休業(~8月25日) |
| 5日(金) | 学習参観日、学年懇談会 | 8月 | |
| 10日(水) | 委員会 | 11日(日) | 山の日 |
| 11日(木) | 前期個別懇談(~12日) | 12日(月) | 振替休日 |
| 12日(金) | 地区こども会(3限) | 19日(月) | 糸魚川中学校部活動体験(AM) |
| 15日(月) | 海の日 | 26日(月) | 2学期始業式 |

◇『『無理』は本当に無理なのか(言葉の力)』(6/5全校集会より)

つながり
発達(信)
よしー!

6月は大きな行事が終わり、1学期の学習や生活を充実させていく時期です。生活科や総合学習でも、調べたり体験したりと、どんどん学習を充実させてほしいと思います。さて、今日1つめのお話は、根知小が今年度、新潟県のモデル校になったというお知らせです。何のモデル校になったかという、名前は「アントレプレナーシップ教育推進モデル事業」のモデル校になりました。こうしたモデル校に選ばれるには、これまでの根知小の様々な教育活動や総合の取組を文書にまとめ申請しますが、選ばれたのは去年までの皆さんの総合やジオ、ふるさと学習などの頑張りが認められた成果です。でも、校長先生「『アントレプレナーシップ』が何だかわかりません。そもそも言えません」は正解です。「言えません」は何回か練習すると言えるようになりますよ(笑)。簡単に言うと、これまでのキャリア教育、総合的な学習をレベルアップし発信力を高めていこう、より社会とつながり、地域の課題についても考えていこうという学習です。少しだけ読むとアントレプレナーシップ教育は、「様々な社会変化の中で、失敗を恐れず、主体性をもって課題に挑む、起業家精神、起業家的資質・能力を有する人材を育成する教育です。キーワードとして、子どもが『自ら課題を見付ける』『失敗体験から学ぶ』『実社会(地域)とつながる』『社会に新たな価値を提供する』ことが大切な視点です」とされています。『起業家的精神、資質・能力』という言葉は難しく、はっきりと見えやすいものでもありませんが、みんながイメージしやすいのは、スキー場に一昨年、オープンしたクレープ屋さんや高浪の池のショップやキャンプ場を運営する伊藤さんでしょうか。でも、みなが終わったばかりの運動会で失敗を恐れず、挑戦していること、失敗からも学び、新しい取組を生みだしていることは「よしやろう!」という主体性の部分で、大きく重なっていると思います。ぜひ、担任の先生とも相談し、地域課題や社会とも向き合い、つながり、総合や生活科、委員会などで新しい価値を生み出して新潟県のモデルとなるように頑張ってください。



ポジティブ
工夫して
一歩前へ!

いや、でも難しそうだなあ「無理」と思ったあなた。その言葉もう一度考えてみてということで、今日は、もう一つのお話として「『無理』は本当に無理なのか(言葉の力)」についてお話します。生活目標で、これから取り組む「ネガティブな言葉を減らそう、ポジティブを増やそう」は、とてもよい取組で大賛成です。皆でよく考え全校で進めてほしい。その中で、今日、取り上げるのは、校長先生のあまり好きではない「無理!」という言葉です。もう口癖のように使っている人もいるかもしれません。しかし、この言葉はよくよく考え、口癖になっている人は注意が必要です。なぜなら「無理」という言葉を使った瞬間に、その課題を解ける可能性、自分の壁を越えることができる可能性が、0%になってしまうからです。自分には、どんな可能性や未来があるかわからない、メジャーで活躍する大谷選手にも自分になれるかもしれない。可能性は0.1%でもあるかもしれません。しかし、「無理」と言った瞬間に、その可能性は完全になくなります。自分で自分の道や未来を閉ざしている。わずかに可能性がある限り、決して「無理」ではないのです。その反対に、校長先生の好きな言葉に「やればできる」という言葉があります。勉強やスポーツが今、あまり得意ではない、お友達とうまくいかない、いろいろな課題や壁を感じることはあると思います。その時に「無理」という言葉を選ぶのか「やればできる」と口にするのか。自分にどんな言葉を聞かせたいかよく考えて、特に「無理」が口癖になっている人は、ネガティブな言葉を常に自分にぶつけ続けていることになるので十分注意して、言葉を使って欲しいと思います。言葉の力は大きい。「無理」を使い続けると小さな壁でも、すぐに「無理」に感じてしまい、何も挑戦できない何に対しても自信の持てない人になってしまいます。今できないのはやってないだけ、やればいつか必ずできる!その可能性は低くても必ずあります。6月もポジティブに工夫して、ポジティブ12で頑張っていきましょう。

